

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	キャリアプランニング	必修選択	必修	年次	3	担当教員	松沢 恵美 井戸田 修一
科目名 (英)	キャリアプランニングⅤ (Career planning Ⅴ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間 (I 部)					曜日 時限	火曜日 2限

【授業の学習内容】

コミュニケーションや基本的対話スキルについて学ぶ。

他人との人間関係の構築や円滑なコミュニケーションスキルの基盤を学び、実践するスキルを身につける。

実施者経験

・2003年に日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー資格を取得。その後、ハンドボール、テニス、陸上競技を中心とした現場でコンディショニング、トレーニング指導を担当。テニスにおいてはプロ選手の専属もおこない、日本テニス協会主催の国際大会においてオフィシャルトレーナーを務める。病院併設の運動器リハビリセンターや、フィットネスクラブの立ち上げにも関わる。(松沢)

・大学卒業後、スポーツクラブで約12年勤務。自分自身の現場の中で培った接客等のスキルはもちろん、店長としての現場マネジメントを通して、店舗運営や人材育成等多岐に渡り担当。スタジオレッスンも多数担当。過去1レッスン内にて120名近くの集客実績もあり。(井戸田)

【到達目標】

語学力・創造力・マネジメント力・ホスピタリティを兼ね備え、業界で活躍できる人材を目指していく。

授業計画・内容

1回目	オリエンテーション 海外留学報告において視野を広げる		
2回目	海外におけるスポーツビジネスの理解を深める①		
3回目	海外におけるスポーツビジネスの理解を深める②		
4回目	プロフェッショナルなコミュニケーションスキルを理解できる①		
5回目	プロフェッショナルなコミュニケーションスキルを理解できる②		
6回目	プロジェクト管理とチームワークについて理解できる①		
7回目	プロジェクト管理とチームワークについて理解できる②		
8回目	グローバルスポーツイベントについて知り、考案することができる①		
9回目	グローバルスポーツイベントについて知り、考案することができる②		
10回目	データ分析とスポーツパフォーマンスについて理解を深める①		
11回目	データ分析とスポーツパフォーマンスについて理解を深める②		
12回目	ファンエンゲージメントとスポーツテクノロジーについて理解を深める①		
13回目	ファンエンゲージメントとスポーツテクノロジーについて理解を深める②		
14回目	グローバルスポーツマーケットのケーススタディを知り、グループワークを実践することができる①		
15回目	グローバルスポーツマーケットのケーススタディを知り、グループワークを実践することができる②		
準備学習時間 外学習			
評価方法	1. 定期試験 (%) 2. 小テスト (%) 3. レポート (%) 4. 課題成果 (100%) 5. 実地試験 (%)	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生へのメッセージ	海外留学の経験を踏まえ、実践的スキルを身につけます。積極的に授業参加をしてください。		
【使用教科書・教材・参考書】			

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	ホスピタリティ	必修 選択	必修	年次	3 年	担当教員	杉本 佳史 三輪 陽子
科目名 (英)	ホスピタリティⅢ (Clinical Practrice Ⅲ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間Ⅰ部			(単位)	2	曜日・時限	金曜日・3 限
【授業の学習内容】							
海外留学を得たうえで、さまざまな業界、業種で使用されているホスピタリティをさらに学び、自身の分野への応用を深めていく。							
【実務経験】							
日本ホスピタリティ推進協会　ホスピタリティコーディネータ認定講師							
【到達目標】							
ホスピタリティ（付加価値共創）は、サービス（等価値交換）の上に乗っているものです。どの分野、社会においてもホスピタリティが必要であることを理解し、実際に使いこなす（習慣づける）ことを目標とします。							
授業計画・内容							
1回目	海外におけるホスピタリティを伝え、理解を深めることができる①						
2回目	海外におけるホスピタリティを伝え、理解を深めることができる②						
3回目	ホスピタリティと国際マーケティングを理解することができる①						
4回目	ホスピタリティと国際マーケティングを理解することができる②						
5回目	ホスピタリティのテクノロジーと革新を理解することができる①						
6回目	ホスピタリティのテクノロジーと革新を理解することができる②						
7回目	サステナビリティと責任あるホスピタリティを理解することができる①						
8回目	サステナビリティと責任あるホスピタリティを理解することができる②						
9回目	スポーツとホスピタリティの融合を理解することができる①						
10回目	スポーツとホスピタリティの融合を理解することができる②						
11回目	グローバルホスピタリティとキャリア戦略を理解することができる①						
12回目	グローバルホスピタリティとキャリア戦略を理解することができる②						
13回目	グローバルホスピタリティの実践プロジェクトを考えることができる						
14回目	グローバルホスピタリティの実践プロジェクトを考え、伝えることができる（プレゼンテーション）①						
15回目	グローバルホスピタリティの実践プロジェクトを考え、伝えることができる（プレゼンテーション）②						
準備学習 時間外学習	海外留学中に撮影した写真、及び調べた内容を各自準備しておいてください。						
評価方法	1. 講義の出席 2. レポート 3. 資格試験	評価方法はGPA制度となります 100～90点　S 89～80点　A 79～70点　B 69～60点　C	・講義への出席日数 ・プレゼンテーション				
受講生へのメッセージ	ホスピタリティという知識と習慣を身に付けて日本だけでなく世界へ羽ばたく人材になりましょう！						
【使用教科書・教材・参考書】							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業科目名 (英)	エクササイズ基礎 スタジオエクササイズ (Studio Exercise)	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	伊藤 ひとみ
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	演習	総時間	30	開講区分	前期
コース	昼間（Ⅰ部）			(単位)	(2)	曜日・時限	木曜日・3限
【授業の学習内容】							
グループ指導の基本であるエアロビクスから、動作・指導法・構成を理解し実習することで、様々なスタイルのカテゴリーを知り実践していく。							
実務者経験：2000年からインストラクターとして活動。日本フィットネス協会ADI、健康運動実践指導者・健康運動指導士の資格を取得。スポーツクラブにてエアロビクス・ダンス系・調整系プログラムを指導。養成コースの講師等を努める。							
【到達目標】							
就職後を念頭に置いて、即戦力となるスキルを習得する。							
目標①動作スキルの向上							
目標②シンメトリー構成の理解							
目標③指導経験を増やす							
目標④指導者としてのホスピタリティを習得							
授業計画・内容							
1回目	基本動作スキルの復習を実践できる						
2回目	ウォーミングアップの指導ができ説明できる						
3回目	デモンストレーション・初級の理解と構成						
4回目	コリオ作成の方法を理解し、作成ができる						
5回目	エアロビックダンスの効果について説明できる						
6回目	エアロビックダンスの強度について説明できる						
7回目	シンメトリーコリオ作成①						
8回目	シンメトリーコリオ作成②						
9回目	シンメトリーコリオ作成③						
10回目	ブレイクダウン法について理解して説明できる						
11回目	オリジナルコリオの指導ができ説明できる。						
12回目	復習・試験対策						
13回目	試験対策						
14回目	定期試験						
15回目	試験解説						
準備学習 時間外学習	指導スキルだけではなくホスピタリティであったり、統率力も求められる職業という理解の上、日々の立ち居振る舞いにも気を配り、内面的にも向上できるよう時間外の過ごし方も工夫することが必要となります。						
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	授業態度（20％） 出席状況（20％） 定期試験（60％）で評価をします。				
受講生への メッセージ	オリジナルコリオグラフィーを作成できることで、個性を発揮したり、仕事の幅を広げることができます。 指導の土台をしっかりと築き上げ自信を持って社会人になれる準備をしましょう。						
【使用教科書・教材・参考書】							
健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者 養成用テキスト							

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	グローバルプログラム	必修選択	必修	年次	3	担当教員	
科目名 (英)	グローバルコミュニケーション (Global Communication)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業形態	演習	総時間	450	開講区分	前期
コース	昼間 (I 部)			(単位)	30	曜日 時限	

【授業の学習内容】

4月から10月にかけて、語学留学を実践する。(オーストラリアクィーンズランド州、ブリスベン)
提携校であるTAFEにおいて、半年間、レベル分けクラスの中で英語を学んでいく。また、後半の3か月間においては、スポーツプログラムも実践していく。

【到達目標】

半年間の語学留学の中で、英語力をあげ、ホームステイを通して、オーストラリアの文化を学び体感していく。帰国後、その語学力を活かした実践に取り組めるよう、準備をしていく。

授業計画・内容												
4月～10月 語学留学 (TAFE)	・ 一日3時間／週5日間／合計24週間のプログラムを実施 ・ レベル分けテストを実施し、クラスを決定 ・ 13週目～24週目にかけては、語学プログラムに加え、スポーツプログラムを実施 ・ ホームステイ先での生活及び、文化を知り、視野を広げていく ・ オーストラリアのスポーツビジネスを知る											
	デイリーレポートへの記録を実施、ホストファミリーとのコミュニケーションの実践											
	日本と繋ぎ、状況報告会を実施し、学びを深めていく											
準備学習時間 外学習	日々の記録を英語でまとめていけるよう、準備をしていきましょう！ また、写真を撮り、記録を残していきましょう！											
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 小テスト（％） 3. レポート（20％） 4. 課題成果（％） 5. 実地試験（80％）	評価方法はGPA制度となります <table><tr><td>100～90点</td><td>S</td></tr><tr><td>89～80点</td><td>A</td></tr><tr><td>79～70点</td><td>B</td></tr><tr><td>69～60点</td><td>C</td></tr><tr><td>59点以下</td><td>F 不合格</td></tr></table>	100～90点	S	89～80点	A	79～70点	B	69～60点	C	59点以下	F 不合格
100～90点	S											
89～80点	A											
79～70点	B											
69～60点	C											
59点以下	F 不合格											
受講生へのメッセージ	半年間の語学留学及び、ホームステイでの生活をできるよう、自身から積極的にコミュニケーションを取っていきましょう！											
【使用教科書・教材・参考書】												

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	パフォーマンス	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	荒牧 友宏
科目名 (英)	ストレングス & コンディショニング (Strength & Conditioning II)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間 (I 部)					曜日・時限	木曜・4 限

【授業の学習内容】

パワートレーニングの重要性とプログラミングを理解し、適切な実施方法を習得する。様々なクライアントのニーズに対応する為にも目的に応じた特異的エクササイズも習得する。

*実務経験:

2007年にNSCA-CPT、2008年にCSCSを取得し、大手フィットネスクラブでインストラクター、パーソナルトレーナーとして指導に当たると共に、クラブチームや高等学校・大学クラブヘストレングスコーチとしてチーム指導に当たる。2012年より京都市においてジムを2店舗経営し、子どもから高齢者、アスリートに至るまで様々なクライアントへの運動指導にあたる。

【到達目標】

パワートレーニングの特徴と必要性を理解し、オリンピックリフティングの適切な実施方法を習得する。基本的なオリンピックリフティングからダンベルを使用したものなど様々なバリエーションのパワーエクササイズを習得する。また、目的に応じたベーシックエクササイズの発展系エクササイズも習得する。クライアントのニーズに合わせたプログラミングが出来るようになる。

授業計画・内容

1回目	パワートレーニング、リフティング、ファンクショナルトレーニングの特異性を説明できる
2回目	ブッシュプレス、ブッシュジャークの特異性を理解し、パワーポジションを習得する
3回目	ブッシュジャークのバリエーションの理解と適切なエクササイズテクニックを習得する
4回目	スナッチの特異性を理解し、適切なフォームを習得する
5回目	クリーンの特異性を理解し、適切なフォームを習得する
6回目	ファンクショナルトレーニングを習得する①
7回目	ファンクショナルトレーニングを習得する②
8回目	ファンクショナルトレーニングを習得する③
9回目	ベーシックエクササイズにおけるパッドテクニックの修正方法を習得する①、ダンベルリフティングを習得する
10回目	ベーシックエクササイズにおけるパッドテクニックの修正方法を習得する②、上肢プライオメトリクスを習得する
11回目	クライアントに合わせたエクササイズの選択と指導方法・修正方法を習得する①、下肢プライオメトリクスを習得する
12回目	クライアントに合わせたエクササイズの選択と指導方法・修正方法を習得する②、体幹部プライオメトリクスを習得する
13回目	まとめ、試験対策
14回目	学期末試験
15回目	解説

準備学習
時間外学習

体得していかなければ漸進出来ない為、復習と実践を行う事。

評価方法

1. 定期試験 (%)
2. 小テスト (%)
3. レポート (%)
4. 課題成果 (%)
5. 実地試験 (%)

評価方法はGPA制度となります
100～90点 S
89～80点 A
79～70点 B
69～60点 C
59点以下 F 不合格

評価は筆記試験。エクササイズの実施方法や特性を理解しているかを確認する。中間試験30点、学期末試験70点の合計100点満点で評価する。評価は、学則規定に準ずる。

受講生への
メッセージ

しっかりと実践しながら学習する事。疑問点が出てきたらその都度質問をし、理解を深める事。

【使用教科書・教材・参考書】

ストレングストレーニング&コンディショニングNSCA決定版第3版 (ブックハウスHD、2010)

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	コンディショニング	必修選択	必修	年次	3	担当教員	太西 城太郎
科目名 (英)	健康フィットネス概論 (Health Fitness Introduction)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業形態	講義	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間（Ⅰ部）			（単位）	(2)	曜日・時 限	火曜日・1限

【授業の学習内容】

一般フィットネスにおける基礎知識の修得を目的とする。
運動と身体とのつながりや、トレーニングの原理からクライアントが安全に運動やトレーニングに取り組める環境作りの基礎を修得する。また、ダイエットやパフォーマンスアップ、障害予防などニーズに合わせたフィットネスプログラムについて理解を深め立案することができる。
※実務者経験：2013年からパーソナルトレーナーとして子供から高齢者まで幅広い年代の運動指導に携わっている。競技力向上やダイエット、健康維持・増進など様々なニーズに対する運動指導を実施している。

【到達目標】

様々なクライアントに対する運動やトレーニングの立案に対する基礎的な知識を修得する。
〈具体的な目標〉
目標①フィットネスとは何か。またフィットネスと健康について説明ができる
目標②一般フィットネスのトレーニングプログラムについて説明ができる
目標③クライアントのニーズに対するプログラムが立案できる

授業計画・内容

1回目	健康とフィットネスのつながりについて説明ができる		
2回目	高齢者と運動の関係性について説明ができる		
3回目	健康維持のために必要な運動（有酸素運動）について説明ができる		
4回目	健康維持のために必要な運動（レジスタンストレーニング）について説明ができる		
5回目	健康維持のために必要な運動（様々なストレッチング）について説明ができる		
6回目	生活習慣病と運動習慣について説明ができる		
7回目	生活習慣病の予防（運動の観点から）説明ができる		
8回目	外科的疾患に対する運動処方について説明ができる		
9回目	内科的疾患に対する運動処方について説明ができる		
10回目	（ケーススタディ）クライアントのニーズに対するプログラム立案・発表①		
11回目	（ケーススタディ）クライアントのニーズに対するプログラム立案・発表②		
12回目	（ケーススタディ）クライアントのニーズに対するプログラム立案・発表③		
13回目	（ケーススタディ）クライアントのニーズに対するプログラム立案・発表④		
14回目	定期試験		
15回目	解答返却・解説		
準備学習時間 外学習	外傷や障害、スポーツ中に起こりやすい内科疾患を復習する必要があります。また、高齢者や女性、子供などの身体的特徴も理解しておく必要があります。		
評価方法	1. 定期試験 80（％） 2. 課題発表 20（％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	期試験と授業内で行うトレーニングプログラムの発表点で評価をします
受講生への メッセージ	健康な人へのトレーニング指導だけでなく、疾患を持った人への運動指導も有効な場合は多々あります。この授業を通じてケガや病気へのリスク管理をしながら正しい運動が指導できるトレーナーになれるよう学んでいきましょう。		

【使用教科書・教材・参考書】

公益財団法人 健康・体力づくり事業財団 健康運動実践指導者養成用テキスト

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	テクノロジー	必修 選択	必修	年次	3	担当教員	
科目名 (英)	動作解析Ⅱ (Motion AnalysisⅡ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (2)	開講区分	後期
コース	昼間 (Ⅰ部)					曜日・時限	火曜日 3限・4限

【授業の学習内容】

世界中のあらゆる競技で活用されている分析ソフト（ダートフィッシュ）のノウハウを学び、分析を実践していく。

* 実務経験:

講師：株式会社ダートフィッシュ・ジャパン代表取締役 社長

【到達目標】

ダートフィッシュソフトを活用し、分析スキルを身につけることができる

授業計画・内容

1回目	動作分析のアプローチ データの表示と評価を学ぶことができる
2回目	高度な比較映像の分析ができる①
3回目	高度な軌跡映像の分析ができる②
4回目	ゲーム分析のアプローチ 基礎を学ぶことができる 動作分析とゲーム分析の違い、ゲーム分析におけるパフォーマンス分析ができる
5回目	タギングパネルの作成と設定 イベントデータをスマートデータへ表示を学ぶことができる
6回目	ゲーム分析結果のプレゼンテーション、モンタージュを学ぶことができる①
7回目	ゲーム分析結果のプレゼンテーション、モンタージュを学ぶことができる②
8回目	ゲーム分析の実践できる①
9回目	ゲーム分析の実践できる②
10回目	ゲーム分析の実践できる③
11回目	3Dアナライザーの設定、実践できる①
12回目	3Dアナライザーの設定、実践できる②
13回目	分析プレゼンテーション作成ができる①
14回目	分析プレゼンテーション作成ができる②
15回目	成果発表とテスト

準備學習
時間外學習

各競技に興味を持ち、動画やニュース画像などを日ごろから見るようにしていきましょう。

評価方法	1. 定期試験 70 (%)	評価方法は G P A 制度となります	
	2. 小テスト (%)	100~90点 S	
	3. レポート (%)	89~80点 A	
	4. 課題成果 30 (%)	79~70点 B	
	5. 実地試験 (%)	69~60点 C	
		59点以下 F 不合格	

受講生への
メッセージ

動作分析ができるように、積極的姿勢で参加しましょう！

【使用教科書・教材・参考書】

- ・講師が教材を用意いたします。（プリント配布・データー）
- ・USB、PCを用意して下さい。

名古屋医健スポーツ専門学校 2025年度 シラバス

授業	イベント	必修選択	必修	年次	3	担当教員	井戸田 修一
科目名 (英)	スポーツイベント企画演習Ⅱ (Sports Event Planning SeminarⅡ)						
学科	スポーツマネジメントテクノロジー科	授業形態	演習	総時間	30	開講区分	後期
コース	昼間 (Ⅰ部)			(単位)	2	曜日・時限	木曜・1限

【授業の学習内容】

スポーツイベントにおける企画から運営までを想定し、個人、又はグループでの発案・プレゼンテーションを中心に進めていく。対象も、年齢や運動レベルなどを基準に、様々なカテゴリーを想定して企画から運営までの発案、プレゼンテーションを行っていく。

実務者経験：大学卒業後、スポーツクラブで約12年勤務。自分自身の現場の中で培った接客等のスキルはもちろん、店長としての現場マネジメントを通して、店舗運営や人材育成等多岐に渡り担当。スタジオレッスンも多数担当。過去1レッスン内にて120名近くの集客実績もあり。

【到達目標】

スポーツイベントにおける企画から運営までについての発案力を身に付ける。
また、その内容を企業側・チーム側等に具体的に分かりやすくプレゼンテーションを通して伝える力を身に付ける。

授業計画・内容

1回目	スポーツチームが行っているスポーツイベントについて調べ、共有できる		
2回目	スポーツイベントがもたらす効果について説明ができる		
3回目	イベント企画においての手順や注意点について説明ができる		
4回目	高齢者向けスポーツイベントの企画演習を行う		
5回目	高齢者向けスポーツイベントの企画発表を行う/フィードバック		
6回目	子供向けスポーツイベントの企画演習を行う		
7回目	子供向けスポーツイベントの企画発表を行う/フィードバック		
8回目	イベントの有効な広告方法・宣伝方法について説明ができる		
9回目	広告やチラシの作成を行う		
10回目	Jリーグについて調べ、Jリーグチームに提案することを想定した、スポーツイベント企画演習を行う		
11回目	Bリーグについて調べ、Bリーグチームに提案することを想定した、スポーツイベント企画演習を行う		
12回目	グループ発表準備①		
13回目	グループ発表準備②		
14回目	実技試験を行う		
15回目	試験解説		
準備学習時間 外学習	日頃から様々なスポーツイベントについて情報を収集すること。高齢者の特徴や子供の特徴、または運動レベル別など様々なカテゴリーの人たちの特徴について調べておく必要がある。		
評価方法	1. 定期試験（％） 2. 課題成果（100％）	評価方法はGPA制度となります 100～90点 S 89～80点 A 79～70点 B 69～60点 C 59点以下 F 不合格	
受講生への メッセージ	イベントに参加する側、企画する側の両側面からしっかりと物事を捉え、企画から運営までを行えるようにしていきましょう。また、プレゼンテーションを通して人に伝えることも大切です。		
【使用教科書・教材・参考書】			